

感染症情報 7月11日～17日

府下小児科201医療機関(堺市19)から

①ヘルパンギーナ	1187例(堺市 75例)
②感染性胃腸炎	901例(堺市 24例)
③溶連菌感染症	480例(堺市 22例)
④おたふくかぜ	436例(堺市 29例)
⑤突発性発疹	108例(堺市 3例)

が報告された。

府下全体としての感染症報告数は前週より0.9%の微増。

ヘルパンギーナが前週比2%増で、第1位をキープし、第2位が感染性胃腸炎、第3位が溶連菌感染症であった。ヘルパンギーナは乳幼児、特に1、2歳児に多く、高熱とよだれ、口内炎による痛みのため、食欲が減退するが、熱は2、3日で治まる。第4位のおたふくかぜが府下全体では前週比23%増で、堺市では前週30例、今回29例で横ばいであった。夏休みに入るのもう少しすれば一旦減ると思われるが、髄膜炎の合併が5%程度と多く、1000人に1人程度に難聴を合併する。任意接種ではあるが、2回のワクチン接種をしておきたい。

ランク外であるが、府下ではマイコプラズマ肺炎の報告数が4週連続で増加している。

はしか、風疹の報告はなかった。